



2022年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年5月12日

上場会社名 株式会社Amazia
 コード番号 4424 URL <https://amazia.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐久間 亮輔
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 神津 光良

TEL 03-6427-8856

四半期報告書提出予定日 2022年5月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家及びアナリスト向け

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期第2四半期の業績(2021年10月1日～2022年3月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期第2四半期	3,419	△6.2	△7	—	4	△99.0	△4	—
2021年9月期第2四半期	3,646	6.8	424	△19.8	426	△18.6	288	△19.3

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年9月期第2四半期	△0.70	—
2021年9月期第2四半期	42.88	41.51

(注)当第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%		
2022年9月期第2四半期	2,883		2,071		67.4	
2021年9月期	3,020		2,049		64.4	

(参考)自己資本 2022年9月期第2四半期 1,943百万円 2021年9月期 1,946百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年9月期	—	0.00	—	—	—
2022年9月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年9月期の業績予想(2021年10月1日～2022年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,000	6.6	300	4.4	300	3.2	190	3.0	28.35

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2022年9月期2Q	6,739,000 株	2021年9月期	6,734,600 株
2022年9月期2Q	299 株	2021年9月期	299 株
2022年9月期2Q	6,736,424 株	2021年9月期2Q	6,720,638 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算説明会について)

当社は、2022年5月13日(金)に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。

この説明会で使用する決算説明資料につきましては、TDnetで本決算短信と同時に開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7
(収益認識関係)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社が属する電子書籍市場規模は、インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2021」によると、2020年度の電子書籍市場（電子書籍＋電子雑誌）規模は4,821億円と推計され、2019年度の3,750億円から1,071億円（28.6%）増加し、2025年度には2020年度の約1.4倍の6,747億円程度に拡大すると予測されています。また、2020年度のマンガアプリ広告収益市場規模は、前年から50億円増加の260億円となり、2021年度には280億円に拡大すると予測されており、アプリでマンガを楽しむユーザーは、引き続き増加傾向にあります。

一方で、電子書籍のビジネスモデルの多様化や成熟によって電子書籍市場が徐々に飽和していくことも想定されます。また、引き続き厳しい競争環境と新型コロナウイルスの感染状況の改善に伴うユーザー行動の変化、海賊版サイトの利用者拡大等が、アクティブユーザー数の伸び悩みや1人当たり課金売上の低下をもたらしている大きな要因であると推察しております。

このような市場環境の中で、「マンガBANG!」の主力であるプレミアムモデル（注）のコーナーにおいて、配信される作品の差別化を図るために、オリジナル作品の創出や出版社との信頼関係を深化させ、先行配信や人気作品の配信数の増加に努めてきました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は3,419,864千円（前年同四半期比6.2%減）、営業損失は7,971千円（前年同四半期は営業利益424,305千円）、経常利益は4,357千円（前年同四半期比99.0%減）、四半期純損失は4,715千円（前年同四半期は四半期純利益288,152千円）となりました。

なお、当社はマンガアプリ事業の単一セグメントであるため、セグメント毎の記載はしていません。

(注) プレミアムモデル：基本的なサービスはすべて無料で提供し、一部の機能を有料で提供するビジネスモデル。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は2,883,404千円となり、前事業年度末に比べ136,776千円減少いたしました。これは主に、敷金及び保証金が61,562千円、投資有価証券が49,999千円増加した一方、現金及び預金が86,932千円、未収還付法人税等が82,306千円、売掛金が63,924千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は811,909千円となり、前事業年度末に比べ158,571千円減少いたしました。これは主に、未払金が144,947千円、買掛金が42,823千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は2,071,495千円となり、前事業年度末に比べ21,794千円増加いたしました。これは主に、新株予約権が24,529千円増加したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前事業年度末に比べ86,932千円減少し、1,812,612千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは25,811千円の収入（前年同四半期は110,947千円の収入）となりました。その主な要因は、未払金の減少144,947千円により資金が減少した一方で、法人税等の還付額83,684千円、売上債権の減少63,924千円、株式報酬費用の計上24,529千円により資金が増加したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは114,663千円の支出（前年同四半期は13,692千円の支出）となりました。その主な要因は、敷金及び保証金の差入による支出62,265千円、投資有価証券の取得による支出49,999千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは1,920千円の収入（前年同四半期は8,147千円の収入）となりました。その要因は、新株予約権の行使による株式の発行による収入1,920千円であります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年9月期第2四半期累計期間の業績予想につきましては、2021年11月11日に公表いたしました業績予想数値と実績数値との間に差異が発生しております。詳細につきましては、本日（2022年5月12日）公表いたしました「2022年9月期第2四半期累計期間の業績予想と実績値との差異に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、2022年9月期通期業績予想につきましては、2021年11月11日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

当該業績予想につきましては、公表時点において、新型コロナウイルス感染症による経済への影響を含む入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

今後、業績予想に変更があった場合は速やかに公表いたします。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当第2四半期会計期間 (2022年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,899,544	1,812,612
売掛金	749,681	685,756
コンテンツ	7,193	8,118
未収還付法人税等	82,306	-
その他	78,261	52,205
流動資産合計	2,816,987	2,558,693
固定資産		
有形固定資産	7,036	7,589
投資その他の資産		
敷金及び保証金	107,369	168,931
投資有価証券	-	49,999
その他	88,788	98,190
投資その他の資産合計	196,157	317,121
固定資産合計	203,193	324,711
資産合計	3,020,181	2,883,404
負債の部		
流動負債		
買掛金	333,636	290,813
未払金	462,035	317,087
未払法人税等	-	23,096
引当金	1,650	1,030
その他	173,158	179,881
流動負債合計	970,480	811,909
負債合計	970,480	811,909
純資産の部		
株主資本		
資本金	361,504	362,494
資本剰余金	357,790	358,780
利益剰余金	1,227,534	1,222,819
自己株式	△393	△393
株主資本合計	1,946,436	1,943,701
新株予約権	103,264	127,793
純資産合計	2,049,700	2,071,495
負債純資産合計	3,020,181	2,883,404

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2020年10月1日 至2021年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自2021年10月1日 至2022年3月31日)
売上高	3,646,941	3,419,864
売上原価	2,320,506	2,176,606
売上総利益	1,326,435	1,243,257
販売費及び一般管理費	902,129	1,251,229
営業利益又は営業損失(△)	424,305	△7,971
営業外収益		
受取利息	9	9
為替差益	1,319	8,792
受取手数料	1,013	2,849
その他	67	753
営業外収益合計	2,409	12,404
営業外費用		
支払利息	18	-
株式交付費	90	60
その他	-	15
営業外費用合計	108	75
経常利益	426,606	4,357
税引前四半期純利益	426,606	4,357
法人税等	138,454	9,072
四半期純利益又は四半期純損失(△)	288,152	△4,715

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	426,606	4,357
減価償却費	2,553	1,829
差入保証金償却額	964	703
賞与引当金の増減額(△は減少)	△550	△620
受取利息	△9	△9
支払利息	18	-
株式交付費	90	60
株式報酬費用	24,969	24,529
売上債権の増減額(△は増加)	195,502	63,924
前受金の増減額(△は減少)	23,411	6,067
仕入債務の増減額(△は減少)	△76,417	△42,823
未払金の増減額(△は減少)	△96,964	△144,947
その他	△48,001	29,044
小計	452,173	△57,882
利息の受取額	9	9
利息の支払額	△15	-
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△341,220	83,684
営業活動によるキャッシュ・フロー	110,947	25,811
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	-	△49,999
有形固定資産の取得による支出	-	△2,428
敷金及び保証金の差入による支出	△13,759	△62,265
その他	67	30
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,692	△114,663
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△1,746	-
新株予約権の行使による株式の発行による収入	9,990	1,920
その他	△96	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,147	1,920
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	105,402	△86,932
現金及び現金同等物の期首残高	1,693,930	1,899,544
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,799,333	1,812,612

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金期首残高へ与える影響はありません。

また、収益認識会計基準等の適用による四半期財務諸表に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」

(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

なお、時価算定会計基準の適用による四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

当社は、マンガアプリ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント
	マンガアプリ事業
ユーザー向け	2,299,938
法人向け	1,119,926
顧客との契約から生じる収益	3,419,864
その他の収益	-
外部顧客への売上高	3,419,864